



国際ロータリー第2800地区

会長 加藤 功
幹事 富樫 松夫

鶴岡ロータリークラブ

例会日：毎週火曜日 午後 12:30～1:30

例会場：鶴岡市錦町 東京第一ホテル鶴岡

事務局：鶴岡市馬場町11-63(産業会館3F) TEL 0235-28-3375

超我の奉仕

第2289回 例会会報 平成17年10月18日(火) 晴(本年度 第15回)

会長報告

加藤 功

「職業奉仕はロータリーの原点である」とよく言われます。この度は、職業奉仕を先人に学ぶという題目でわが国の歴史上の人物として二宮金次郎の「報徳思想」について話をしたいと思います。

二宮金次郎[天明7年(1787)～安政3年(1856)]は、江戸時代後期に「報徳思想」を唱え、農村復興運動を指導した篤農家(老農)、思想家です。通称は金次郎。諱の「尊徳」は、正確には「たかのり」と訓む。私たちになじみ深いのは、薪を背負って本を読む勤勉・勤労な少年の姿です。

その生涯を簡略に述べれば、相模国足柄上郡栢山村(現在の神奈川県小田原市栢山)に富農の子として生まれる。水害や両親の死などにより、家の没落に直面する。しかしながら、厳しい労働と自らの才覚により、自家の復興をみごとに成功させた。さらに、その経験を活かして、武家の財政再興や村落復興にも成功した。その手腕を買われて、晩年には幕府の役人(御普請役)に登用されるまでに出世する。

尊徳の教えを実行して我が家を興し、わが村を興して、住みよい郷土をうちたてようと志す人々は、各地にあって、報徳仕という団体を作った。尊徳の教えにある、人間の徳である真心と、勤労をもって、天地の徳にむくい、「分度」を確立し、「推譲」の徳を実行して、われも栄え人も栄えさせようとの志から、報徳仕という名が生まれた。「分度」とは、復興の対象となる家や「領地」の歳入・歳出を数10年分にわたり、徹底的に調査し、それに見合った経営規模の枠を決定することである。「推譲」とは、合理的生活指導によって生じた余剰を、自らのため、村のため、国家公共のために蓄え、かつそれらを有効的に用いることを意味する。

猪瀬直樹は著書の中で、「報徳仕法はそれらすべてを統合した攻めの富国論だった。農業でありなが

ら工業と商業の要素を一体として生きたのである。建設業や人材派遣業や外食産業などの異業種が農業に進出しはじめている成熟社会のいま、金次郎の思想は必ず生きてくる」と評価している。

◎8月15日に、鶴岡地域職業訓練センターにおいてRI2800地区、新世代セミナーが行われました。佐藤孝子さん、富田喜美子さん大変ご苦労様でした。

日本経済の展望-ポスト・デフレへ

野村證券カブ金融経済研究所 シニアエコノミスト 美和 卓氏



今夏(2005年夏)、日本が大きく変わったと予感させる出来事が起きた。一つは言うまでもなく解散総選挙、そして自民党大勝であり、もう一つはそれと前後して急上昇を演じた株式市場である。この背景には、日本経済の大きな潮流変化が隠されていると考える。

戦後日本経済は、輸出か公共事業か、いずれにしても何らかの「カンフル剤」がなくては成長できない経済だった。しかし、これからの日本経済は、国内の消費と企業の設備投資だけで自律的に拡大できる姿に変わりつつあり、結果として2006年度には待望のデフレの解消が見込める状況になっていると考えている。

2005年前半の消費は非常に力強い拡大を見せた。これは単なるマグレではなく、今年後半、そして来年以降も持続しうると考えている。理由は、消費者、特に雇用者の所得環境が大きく変化している、ということにある。少子高齢化に向け、国内の労働市場は明らかに「人手不足」のシグナルを発している。雇用拡大の速度は今後加速していく公算が大きい。加えて、これまで所得伸び悩みの元凶となってきた一人当賃金が増加に転じている。企業がパートや派遣労働者などの臨時雇用に依存する姿勢を改め始めたことが大きい。

企業自身の設備投資意欲も非常に強い。従来、特

自分にも出来る温暖化防止

ストップ! アイドリング

に輸出という需要の見込みがなければ投資をしなかった国内企業は、現状、構造的に投資を拡大せざるを得ない局面にきている。バブル崩壊後投資を控えてきた結果老朽化した設備を廃棄し更新する企業が続出している。また、株主の要求が厳しくなったため、利益率の落ちた設備を早々に処分してより高い利益率が見込めるところに投資をせざるを得ないという事情もある。

デフレから「ポスト（注：郵便局、の意味ではなく、～の後の意です。念のため）・デフレ時代」を迎えるとともに、経済だけではなく金融の世界にも変化が及んでくると期待される。デフレ時代の国内金融の特徴は、超低金利と株安であった。これを招いたのは、家計を中心とする金融資産の運用が預貯金などの安全資産に偏り過ぎて金余りを引き起こす一方で、企業の資金需要が低下し金融機関の貸出量が大きく減少する、という異常なお金の流れであったと考えられる。これに最近、ちょっとした変化が起り始めている。

まず、企業は、昨年度（2004年度）8年ぶりに資金の調達を増やす方向に転換した。まだ、金融機関からの借入は返済額が上回っているが、ともかく資金の調達を増やしたということはそれだけ前向きな動きが企業に出てきた証拠である。

一方、1400兆円の金融資産を持ちながら、その半分以上を預貯金で運用してきた家計も、昨年度、戦後初めて預貯金残高を前年に比べて減らした。預貯金に代わって家計の資産の主な受け皿になっているのは「個人向け国債」であるが、最近、国内外の金利差に注目して、外国債券や外国債券が組み込まれた投資信託も兆円単位で増加を続けている。

ポスト・デフレ時代の金融においては、家計や企業が「リスク」を少しずつ取り始めているという変化が現れている。これは、徐々に国内の金利や株価を動かす大きな力になっていくと言えるだろう。

地区セミナーに参加して

越智茂昭

「ロータリーの友、ガバナー月信・ロータリー情報・ICO・雑誌・広報委員会合同セミナー」へ石田さんと二人で参加してきました。

講演は「ロータリーの友」委員会常任委員・千葉RCの初山有恒氏でした。初山氏は鶴岡へ来られるに当たり、世田谷文学館で開催されている「藤沢周平の世界展」へ行かれたそうです。藤沢周平の原稿から、いかに苦悩し作品を書いているか、心の動きがわかりとても良かったそうです。

「ロータリーの友」の今後の問題として

- 1 名簿。個人情報に関する法律ができてから、名簿に載せないでという人、クラブもあるため、全国的な名簿が必要か等検討するそうです。
- 2 法人化。任意団体なので委員長個人の印鑑で事務所など契約、法人化の検討もするそうです。
- 3 ウェブとの関係。インターネットと「ロータリーの友」、同じ情報を流しても仕方ないのでは。
- 4 誌面の内容、「風紋」などはプロの写真家、ライターにお願いし大変好評である。今後も継続していきたいのでついでには輝いているロータリアンの推薦をお願いしますということでした。

今後はタイムリーな記事、新潟の地震ではロータリーの仲間は無事だったのか、危機管理で役に立つことがあったのではないかと、新たに原稿を起こさなくても会長さん、幹事さんの日記でも記事になるのではとのことでした。

商業誌の場合は売り上げに一喜一憂し編集者の励みになっているが「ロータリーの友」は機関誌でもあるので皆さんからのご意見を励みにやっています。地区委員のレポートを宜しくお願いしますということでした。

委員会報告

●出席委員会

委員長 阿蘇司朗

本日の出席		前々回の出席	
会員数	46人	出席率	62.22%
出席数	32人	修正出席数	31人
出席率	71.11%	確定出席率	68.89%

●メイクアップされた方

藤川享胤君・本間喜美子君・秦 幸助君
加藤 功君・丸山隆志君・御橋義諦君
真島吉也君・越智茂昭君・齋藤 昭君
佐藤友行君・富樫松夫君

（スマイル）

佐藤孝子君 香頭ヶ浜海岸清掃のお礼

本間昭吉君 美和さんスピーチありがとうございました。ますますのご活躍を！

富田喜美子君 夫が10月12日（水）、岩手県盛岡市で開催された「精神衛生福祉全国大会」で精神科医として厚生労働大臣表彰を受けました。

加藤 賢君 山添高インターンシップご協力ありがとうございました。10/25 木村屋さん工場見学よろしくお願ひします。

富樫松夫君 美和さん、講演大変有難うございました。